

平成30年度 荒尾市の決算

市の財政の決算状況をご報告します。
 財政局課財政係 ☎ 63-1289

特集 荒尾市の決算

一般会計 収支の状況

一般会計決算額は、歳入が213億5,790万9千円(対前年度比3.3%増)、歳出が209億8,416万4千円(対前年度比4.5%増)で、差し引き3億7,374万5千円の黒字になりました。そのうち2億6,999万9千円は、令和元年度に繰り越して行う事業の費用として必要なので、実質的な収支では、1億374万6千円の黒字となりました。

また、積立基金(市の貯金)に3億3,302万7千円積み立て、1億7,346万5千円取り崩しました。その結果、平成30年度末の積立基金の合計は68億6,562万円になりました(出納整理期間を含む)。

歳入の決算状況

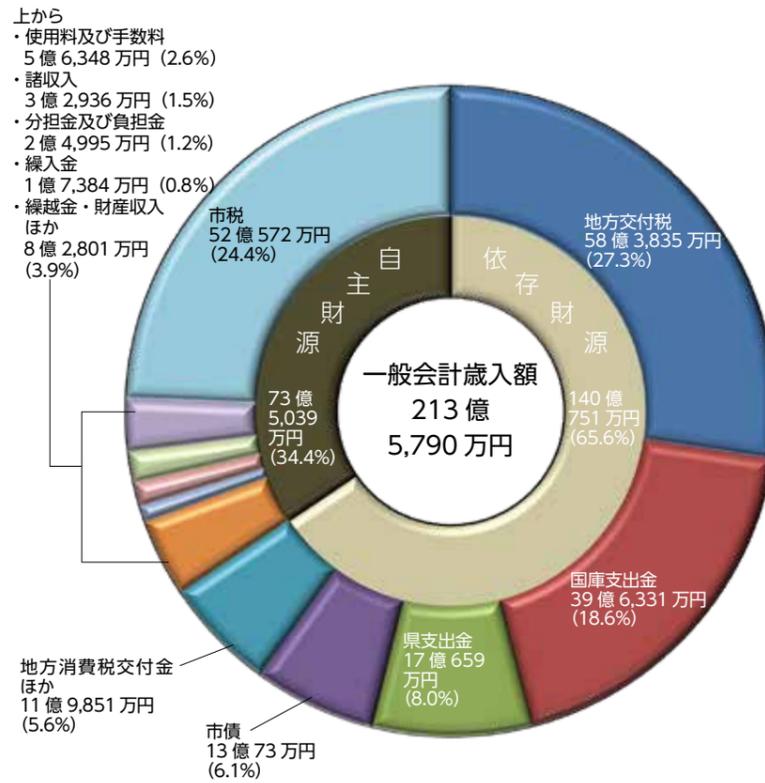
【歳入の決算状況】

歳入総額は、前年度と比べて6億7,989万1千円増加しています。

自主財源(市が自主的に収入できるお金)の合計は73億5,039万9千円で歳入の34.4%です。このうち市民税や固定資産税などの市税が52億572万7千円で歳入の24.4%を占めています。

一方、依存財源(国や県によって額が決められ、交付されたり割り当てられたりするお金)の合計は140億751万円で歳入の65.6%を占めています。このうち地方交付税が58億3,835万3千円で、歳入の27.3%です。

このように、本市の財政は自主財源よりも依存財源が占める割合が高いことから、地方交付税や国県補助金など、国や県の施策に大きな影響を受けます。そのため、行政活動の自主性と安定性に弱い面があるということも考慮した行政運営が必要になります。

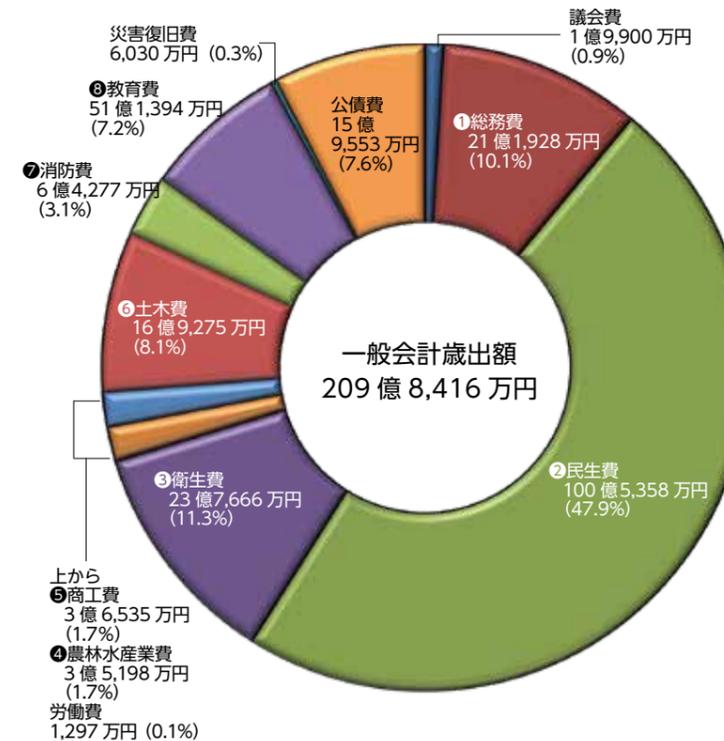


決算とは

4月～翌年3月を一区切りとして、市にどのくらいの収入があり、そのお金をどのように使ったのかをまとめた家計簿です。市では9月に開かれた市議会で詳しく審議された後、認定を受けました。

※グラフや表の金額は1万円未満を切り捨てて表記していますので、合計と合わない場合があります。また、割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

歳出の決算状況



平成30年度は 主にこのような事業に使いました

歳出総額は、前年度と比べて8億9,916万4千円増加しています。

① 総務費	市役所での一般管理事務費	9億3,321万円
	基金への積立	2億5,272万円
	選挙のための経費	2,825万円
② 民生費	国民健康保険特別会計への繰出金	6億3,788万円
	介護保険特別会計への繰出金	7億4,925万円
	障害者自立支援給付費	15億5,204万円
	子ども医療費や児童扶養手当の支給など子育て支援の経費	7億6,108万円
	保育園、認定子ども園の運営経費	19億4,767万円
	児童手当の支給経費	8億8,626万円
	生活保護の経費	16億1,025万円
③ 衛生費	母子保健の経費	3,948万円
	がん検診など健康増進の経費	5,008万円
	ごみの収集・処理費用	8億6,870万円
	市民病院への支出金	4億9,729万円
④ 農林水産業費	農道や水路の整備などの推進経費	9,294万円
	林業振興の経費	8,708万円
⑤ 商工費	商工振興費用	7,179万円
	観光事業の経費	1億1,922万円
⑥ 土木費	下水道事業への支出金	3億6,010万円
	市営住宅の建設、維持管理経費	2億2,704万円
⑦ 消防費	有明広域消防組合への負担金	5億505万円
	防災や災害対策の経費	1,808万円
⑧ 教育費	教育委員会事務局の一般管理費	3億6,507万円
	小・中学校の施設改修、新築・増築などの費用	4億3,340万円
	運動公園などの体育施設の管理運営費	9,132万円
	学校給食の経費	2億6,611万円

平成30年度の実績 Pick Up



花のみちプロジェクト 事業費 287万円



奨学金返済わが者就労支援補助金・保育士家賃補助金 83万円



複合健診事業費(ピロリ菌検査) 230万円



介護予防拠点整備事業費 4,250万円



観光拠点整備推進事業費 3,310万円



西原桜町線道路改良事業費 2億1,433万円



中学校教室用エアコン整備事業費 2億5,769万円



英語検定チャレンジ事業費 298万円